

研究・調査報告書

報告書番号	担当
84	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and coronary artery calcium in middle-aged Japanese men. 日本人中年男性におけるアルコール消費量と冠動脈の石灰化について	
執筆者	
Okamura T, Kadowaki T, Sekikawa A, Murata K, Miyamatsu N, Nakamura Y, El-Saed A, Kashiwagi A, Maegawa H, Nishio Y, Takamiya T, Kanda H, Mitsunami K, Kita Y, Edmundowicz D, Tamaki S, Tsujita Y, Kuller LH, Ueshima H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
The American Journal of Cardiology.2006 Jul 15;98(2):141-4	
キーワード	
アルコール消費量、冠動脈石灰化、J型関連	
<p>要 旨</p> <p>背景： 飲酒量と冠動脈の石灰化の関係については様々な疫学調査が行われているが、統一した見解は得られていない。さらに多量飲酒の影響についても十分検討されているとは言いがたい状況である。</p> <p>方法： この研究では心血管疾患の既往を持たない40～49歳の一般地域住民の男性からランダムに抽出した人を対象として (n=245)、電子線コンピュータ断層撮影 (EBCT) で測定した冠動脈の石灰化 (CAC) と飲酒状況の関連を調査した。</p> <p>結果： 飲酒量と CAC の間には J 型の関連があった。飲酒しない人と比較して、多量飲酒者 (46g/日以上) と 69g/日以上の超多量飲酒者の CAC は、他の心血管疾患の危険因子を調整しても、有意に高い値を示していた。</p>	